

## <応用実習の評価項目とその具体的な観点>

実習の評価は、以下の9項目について、評価を行います。

### ①観察の視点と記録

- ・ 幼児の姿を多角的な視点から捉えようとしていたか。
- ・ 自分なりに記録の仕方を工夫しようとしていたか。
- ・ 保育における「記録」の意味を理解していたか。（客観性のある記録となっていたか、記録と感想との違いをわかっていたか）
- ・ 個の記録、集団の記録、遊びの記録など、それぞれが充実したものであったか。

### ②幼児理解

- ・ 一人ひとりの幼児について理解しようとしていたか。
- ・ 幼児を一面から捉えるのではなく、多角的に理解しようとしていたか。
- ・ 表面的な行動だけでなく、幼児の内面まで理解しようとしていたか。
- ・ 幼児同士の関係性をふまえながら、個々の幼児理解をしようとしていたか。
- ・ 幼児の良い面を捉えようとする見方があったか。
- ・ 自分なりに幼児観、子ども観を築こうとする姿勢があったか。

### ③指導案の作成

- ・ 指導案の基本的な作成の手順をきちんと理解していたか。
- ・ 幼児の実態をふまえたねらいや内容の設定をしていたか。
- ・ 教材研究や環境構成に関して、その意図を明確にしながら示していたか。
- ・ 指導の仕方だけでなく、なぜそのような指導をするのかまで含めて、指導案の中に書かれていたか。
- ・ 自分の考えたことを的確な文章として表現することができていたか。
- ・ 自分なりに工夫しながら、かつ丁寧に指導案を書いていたか。

### ④教材研究・環境構成

- ・ 限られた中で教材研究をするのではなく、様々なものの中から、適当な教材を精選していたか。
- ・ 頭の中だけで考えるのではなく、実際にいろいろな物にふれたり自分でやってみたりしながら、教材研究をする姿があったか。
- ・ 教材や環境が、幼児の実態をきちんと踏まえたものとなっていたか。
- ・ 自分が考えた教材だけでなく、日常的にある保育の環境についても、意味を考えてみようとする姿があったか。
- ・ 幼児の動線をきちんと考えながら、環境を構成していたか。

### ⑤保育実践

- ・部分実習（素話・食事・遊び）および全日実習を通して、学級全体の担任であるという意識をもって保育をしていたか。
- ・担当する保育時間内について、責任をもち、あきらめずに最後までやり遂げようとする姿勢があったか。
- ・立案した指導案に基づいて、保育をすすめようとしていたか。
- ・保育中に起こった事象について、臨機応変さや柔軟さをもちながら、丁寧に対応しようとしていたか。
- ・課題曲のピアノでの弾き歌いは、実習までに十分練習されていたか。

## ⑥保育の反省・整理

- ・保育中の課題を的確に捉え、その要因を詳細に分析することができていたか。
- ・反省したことを、次の保育に活かそうとする考え方があったか。
- ・保育における「反省」の意味を理解していたか。
- ・保育後に指導案の修正等を、きちんと行っていたか。
- ・保育後の反省会の中で、自分の考えをまとめて発言したり、他の人からの意見をふまえて、さらに反省、整理を深めようとしたりする姿があったか。

## ⑦幼児に対する態度

- ・幼児にすすんでかかわる積極性があったか。
- ・幼児に対する態度が適切なものであったか。（やわらかさや優しさをもったかかわり方であったか、幼児に対して指示する言動が目立つことはなかったか）
- ・幼児をひとりの人として尊重する意識をもっていただか。

## ⑧事務の処理

- ・提出物の期限を厳守していたか。
- ・担当教員からの指示があつてからではなく、自分で必要なことをすすめていく力があつたか。
- ・実習期間全体を見通し、計画性をもって立案等をすすめていたか。

## ⑨実習態度

- ・社会に出る者としての意識や態度をもっていただか。（あいさつなど基本的なことが身につけていたか、言葉遣いや立ち居振る舞いは適切であったか）
- ・行事での催しの準備などの場面で、学生同士の関係性を良好なものにしながら活動していただか。
- ・実習全体を通して、自分なりの課題意識をもって学ぼうとする姿勢があつたか。
- ・保育に対する真摯な姿勢や意欲があつたか。